



「サント・ペラジーでの自画像」(1871年)

# クールベ展

2002.3.1<sup>金</sup> - 3.31<sup>日</sup>

開館時間=火~金曜日(9:30~19:00) / 土、日曜日、祝日(9:30~17:00) / 入室はいずれも閉館30分前まで / 初日は午前10時開展式

入場料=一般 900円(720円) 高大生 500円(400円) 小中生 300円(240円)

※( )内は前売り及び団体20名様以上の料金

※65歳以上の高齢者(長寿手帳等が必要)・身体障害者手帳・療育手帳または精神障害者保健福祉手帳所持者は入場無料

※第2・第4土曜日は小・中・高生入場無料

Takamatsu City Museum of Art

**高松市美術館**

〒760-0027 香川県高松市紺屋町10-4 Tel.087-823-1711

主催=高松市美術館 共催=読売新聞大阪本社 / 西日本放送

後援=フランス大使館

協力=日本航空

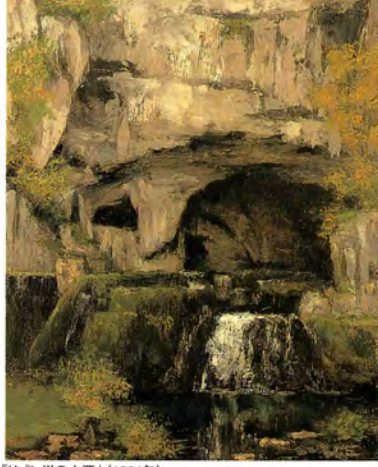
Musée Gustave Courbet / France, Maison Natale du Peintre. Commissaire général de l'exposition: Jean-Jacques Fernier



「オルナンの若い女性の肖像」(1842年)



「トゥルーヴァルの黒い岩」(1866年)



「リノン川の水源」(1864年)



「若い石割り人夫」(1865年)



「翼にかかった雪の中の狐」(1860年頃)

フランスの東部の小都市オルナんに生まれたクールベは、歴史画重視の古典主義、ロマン主義が主流であった19世紀半ばのフランス画壇に対抗し、ありのままの自然や社会の現実を描写・把握することを目指してリアリズム(写実主義)の旗を掲げました。凡俗で野卑にすら見える題材を扱って憚らない彼の作品と芸術観は、後の印象派の画家達に引き継がれて近代絵画への革新の始まりとなりました。クールベには、リアリズムを標榜した反アカデミズムの作品にとどまらず、生まれ故郷オルナン近郊や英仏海峡を描いた風景画、肖像画や裸婦像、さらには狩猟画・動物画といった多彩なジャンルにわたる優品が数多く知られています。

政治的には共和主義者であったクールベは、1871年のパリ・コミュンの事件が原因で投獄の憂き目に遭いながらも獄中で見事な自画像を製作するなどの意欲を見せますが、余儀なく亡命したスイスで58歳の生涯を閉じました。

本展は、国内では1989年の大回顧展以来の本格的なクールベ展となるもので、彼の生家でもあるオルナンのクールベ美術館の所蔵作品から、彼の多彩な創作ジャンルを網羅する油彩画約60点をはじめデッサン・版画・ポートレート等約90点を展示するものです。



「森を走る鹿」(1865年頃)



「花」(1871年)

ギャラリートーク

◆当館学芸員によるギャラリートーク

3月2日(土)／3月16日(土)  
午後2時より2階展示室にて

◆美術館ボランティア「civi(シヴィ)」

毎日曜日(3月3日,10日,17日,24日,31日)  
祝日(3月21日)  
午前11時～午後2時～1日2回  
いずれも2階展示室にて ※聴講には観覧券が必要です。

交通のご案内

JR四国-JR高松駅下車、南へ徒歩15分  
コトデン-瓦町駅-片原町駅下車、徒歩3分  
バス路線-紺屋町バス停下車、徒歩3分  
駐車場-美術館地下に公営駐車場  
(有料、乗用車144台収容)

